

I 穀物
1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

【生産量】 2015/16年度 前年度比 **↑** 前月比 **↑**
生産量は、インド等で減少するものの、中国、EU等で増加することから、世界全体では史上最高の前年度を更に上回る733.1百万トンとなる見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、国別には、EUで上方修正、ロシアでわずかに上方修正された。

【消費量】 2015/16年度 前年度比 **↑** 前月比 **↓**
消費量は、中国で飼料用需要の減退に伴い減少し、インドでも減少するものの、EU等で増加することから、世界全体では史上最高の前年度を更に上回る708.7百万トンとなる見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で下方修正され、国別には、EUで上方修正、中国、米国、パキスタンで下方修正された。

【貿易量】 2015/16年度 前年度比 **↓** 前月比 **↑**
世界全体の貿易量は、前年度より減少し、163.1百万トンとなる見込み。
国別には、輸出国では、ウクライナ等で増加し、EU、米国、カナダで減少する見込み。輸入国では、アルジェリア等で増加し、イラン等で減少する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、輸出国ではカザフスタンで上方修正、EUで下方修正、輸入国ではアルジェリアで上方修正、ブラジル、イランで下方修正された。

【期末在庫量】 2015/16年度 前年度比 **↑** 前月比 **↑**
期末在庫量は、前年度より増加し、世界全体で史上最高の239.3百万トンの見込み。
国別には、インド、カナダ等で在庫が取り崩されるものの、中国、米国、EU等で積み増しされる見込み。世界全体の期末在庫率は33.8%と前年度より上昇する見込み。
なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、国別には、中国、米国等で上方修正、EU、イラン等で下方修正された。

図-1 世界の小麦のシェア (2015/16年度)

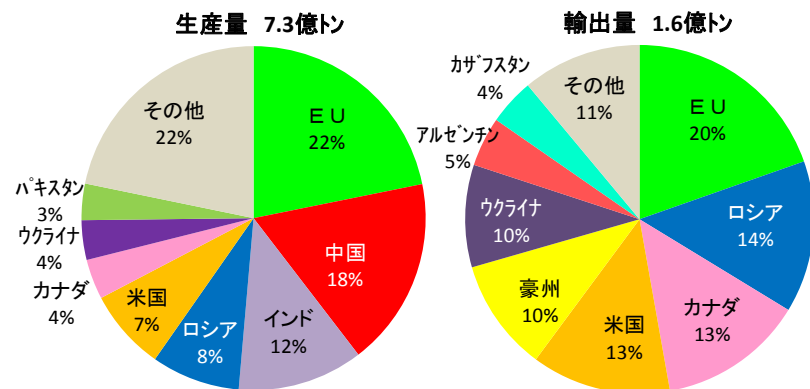


表-1 世界の小麦需給 (米国農務省)

年度	2013/14	2014/15 (見込み)	2015/16		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	714.9	725.4	733.1	0.8	1.1
EU	144.6	156.8	160.0	1.5	2.0
中国	121.9	126.2	130.2	-	3.2
インド	93.5	95.9	86.5	-	▲ 9.7
米国	58.1	55.2	55.8	-	1.3
ロシア	52.1	59.1	61.0	0.0	3.3
カナダ	37.5	29.4	27.6	-	▲ 6.2
豪州	25.3	23.1	24.5	-	6.2
消費量	697.9	704.6	708.7	▲ 0.7	0.6
うち飼料用	126.5	130.9	132.9	▲ 0.6	1.5
中国	116.5	116.5	112.0	▲ 2.0	▲ 3.9
EU	117.3	123.5	128.8	3.1	4.3
インド	93.9	93.1	90.0	-	▲ 3.3
ロシア	34.1	35.5	37.0	-	4.2
米国	34.3	31.6	31.9	▲ 0.3	1.2
パキスタン	24.1	24.5	24.4	▲ 0.2	▲ 0.4
エジプト	18.5	19.1	19.2	-	0.5
貿易量	165.9	164.1	163.1	0.4	▲ 0.6
(輸出)					
EU	32.0	35.4	32.0	▲ 0.5	▲ 9.7
米国	32.0	23.3	21.1	-	▲ 9.3
カナダ	23.3	24.1	22.0	-	▲ 8.8
ロシア	18.6	22.8	23.0	-	0.9
豪州	18.6	16.6	17.0	-	2.5
ウクライナ	9.8	11.3	15.5	-	37.5
カザフスタン	8.1	5.5	7.0	0.5	26.4
(輸入)					
エジプト	10.1	11.1	11.0	-	▲ 0.6
インドネシア	7.4	7.5	8.1	-	8.3
アルジェリア	7.5	7.3	8.1	0.4	11.6
ブラジル	7.1	5.4	6.0	▲ 0.5	11.7
日本	6.1	5.9	5.7	-	▲ 3.0
イラン	4.8	6.3	3.5	▲ 0.5	▲ 44.4
EU	4.0	6.0	6.3	-	5.4
期末在庫量	193.9	214.8	239.3	1.7	11.4
中国	65.3	76.1	96.3	2.5	26.5
米国	16.1	20.5	26.6	0.3	29.7
インド	17.8	17.2	13.2	▲ 0.0	▲ 23.3
EU	9.9	13.8	19.3	▲ 0.8	39.8
イラン	7.2	7.8	7.1	▲ 0.2	▲ 9.0
カナダ	10.4	7.1	4.4	▲ 0.0	▲ 38.4
豪州	4.6	4.0	4.4	0.0	10.8
期末在庫率	27.8%	30.5%	33.8%	0.3	3.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」 (12 April 2016)

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、冬小麦が減少するものの、デュラム小麦及び春小麦が増加することから前年度より増加し、55.8百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、31.9百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より減少し、21.1百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より増加し、期末在庫率も50.1%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、消費量で下方修正された。結果として期末在庫量が上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

＜冬小麦＞

2015/16年度の収穫作業は2015年8月に終了。生産量は2014/15年度より0.5%減の37.3百万トンとなる見込み。これは、前作の収穫遅延に伴う播種作業の遅延や、他の品目より収益性が低いため播種面積が減少するとともに、大平原中部・南部で冬季に乾燥型の天候が続いたこと等から単収が低下したため。

2016/17年度の播種作業は2015年9月上旬から11月半ば頃に行われた。2015年9月の高温乾燥型の天候により発芽や初期生育が懸念されたが、10月下旬から12月にかけての降雨により、大平原南部や南部中央で作柄が改善した。一方、中西部を含む一部産地では降雨過多となり、播種や生育が遅延した。冬季は比較的温暖となり、大平原中部・南部では例年より早く休眠明けを迎えたが、寒さへの耐性がなく、春の寒波による影響が懸念されている。

米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2016.4.18)によれば、4月17日時点の主要18州の出穂進捗率は12%と、前年同期(13%)、過去5年平均(15%)を下回っているが、作柄評価は良/やや良が57%と、前年同期(42%)を上回っている。

＜春小麦＞

2015/16年度の収穫作業は2015年9月に終了。生産量はデュラム小麦が2.2百万トン(対2014/15年度比52.6%増)、その他の春小麦が16.2百万トン(同0.7%増)といずれも2014/15年度を上回る見込み。これは、播種時期に好天に恵まれるとともに高収益が見込まれるデュラム小麦の播種面積が増加したため。

2016/17年度の播種作業は2016年4月から開始され、USDA「Crop Progress」(2016.4.18)によれば、4月17日時点の主要5州の播種進捗率は27%となり、前年同期(31%)を下回っているものの、過去5年平均(19%)は上回っている。

【貿易情報】

USDA「Wheat Outlook」(2016.4.14)によれば、2015/16年度の輸出成約高は、2016年3月31日時点で19.3百万トンとなった。米国産小麦の輸出は、米ドル高による競争力の低下から低調になっており、2015/16年度の輸出量は21.1百万トンと、1971/72年度(16.3百万トン)以降で最低となる見込み。また、これに伴い期末在庫量は26.6百万トンに上昇し、1987/88年度以降で最大となる見込み。

我が国の輸入先国シェア	1位(2015年数量ベース)	50.5%
世界の生産量シェア	5位(2015/16年度)	7.6%
輸出量シェア	4位(2015/16年度)	13.0%

表-2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

(単位:百万トン)

年 度	2013/14	2014/15 (見込み)	2015/16		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	58.1	55.2	55.8	-	1.3
消費量	34.3	31.6	31.9	▲ 0.3	1.2
うち飼料用	6.2	3.3	3.8	▲ 0.3	14.4
輸出量	32.0	23.3	21.1	-	▲ 9.3
輸入量	4.7	4.1	3.3	-	▲ 19.7
期末在庫量	16.1	20.5	26.6	0.3	29.7
期末在庫率	24.2%	37.4%	50.1%	0.8	12.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.35	18.77	19.06	-	1.5
単収(t/ha)	3.17	2.94	2.93	-	▲ 0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 April 2016)

写真-1 サウスダコタ州アバディーン (2016年3月28日撮影)

— 肥料散布中の春小麦播種前のほ場 —



写真提供：サウスダコタ小麦生産者協同組合

イ カナダ

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、プレーリー西部の乾燥から前年度より減少し、27.6百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より減少し、8.8百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より減少し、22.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も14.2%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2013/14年度の消費量、輸入量で上方修正、期末在庫量で下方修正、2014/15年度の消費量、輸入量で上方修正、輸出量、期末在庫量で下方修正された。結果として、2015/16年度の期末在庫量がわずかに下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

＜冬小麦＞

2015/16年度の収穫作業は2015年8月に終了。生産量は前作の大豆の収穫遅延により播種作業が遅れて播種面積が減少したこと等から、2014/15年度より23.4%減の2.2百万トンとなる見込み。

2016/17年度の播種作業は2015年9月頃から行われ、主産地のオンタリオ州では、2014年秋に比べて播種条件がかなり良好であったこと等により、播種面積は2015/16年度より24.5%増の69.8万ヘクタールとなった。

農業市場情報システム(AMIS)「Market Monitor」(2016.4.7)によれば、プレーンズ（アルバータ州南東部からマニトバ州南西部の平原）西部では、引き続き凍害が懸念されており、作柄はばらつきがある状態となっている。一方、現地調査会社によれば、オンタリオ州では3月末から4月初旬に降雪があったものの、生育は総じて順調な模様。

＜春小麦＞

2015/16年度の播種作業は2015年4月下旬から6月中旬に行われた。主産地のプレーリーで生育初期に乾燥状態が続いたこと等により、播種面積はデュラム小麦が前年度を上回ったものの春小麦は下回った。その後、夏の半ばから後半の降雨により収穫前には作柄が幾分改善した。8月上旬から開始された収穫作業は、温暖乾燥型の天候を受けて進展し、10月下旬にほぼ終了した。

カナダの播種作業は、例年4～6月頃に行われる。

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Report」(2016.4.1)によれば、2016/17年度は、春の気温が例年より高く、播種作業が前倒しで開始されると見られるものの、小麦価格の低迷による油糧種子・豆類への転作の進展等から、収穫面積は2015/16年度より4%減となる見込み。一方、単収は前年度を上回り、生産量は29.5百万トンと2015/16年度(27.6百万トン)を上回る見込み。

【貿易情報・その他】

カナダ穀物協会(CGC)「Grain Statistics Weekly」によれば、2015/16年度の輸出量累計は、2016年4月17日時点で普通小麦11.8百万トン（対前年同期比2.8%増）、デュラム小麦3.4百万トン（同8.5%減）となっている。

（我が国の輸入先国シェア2位（2015年数量ベース 29.2%）
世界の生産量シェア 6位（2015/16年度 3.8%）
輸出量シェア 3位（2015/16年度 13.5%）

表－3 カナダの小麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2013/14	2014/15 (見込み)	2015/16		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.5	29.4	27.6 (27.6)	-	▲ 6.2
消費量	9.4	9.1	8.8 (8.8)	-	▲ 3.7
うち飼料用	4.2	3.8	3.6 (4.2)	-	▲ 5.5
輸出量	23.3	24.1	22.0 (22.0)	-	▲ 8.8
輸入量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	▲ 2.0
期末在庫量	10.4	7.1	4.4 (4.0)	▲ 0.0	▲ 38.4
期末在庫率	31.8%	21.3%	14.2% (13.0%)	▲ 0.1	▲ 7.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.44	9.48	9.60 (9.58)	-	1.3
単収(t/ha)	3.59	3.10	2.88 (2.88)	-	▲ 7.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 April 2016)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(13 April 2016)

写真－2 カナダ東部 オンタリオ州

－生長を再開した冬小麦畑－（2016年4月12日撮影）



写真提供：Jonathan Brinkman氏

ウ 豪州

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より増加し、24.5百万トンとなる見込み。

消費量は、ほぼ前年度並みの7.2百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産増に伴い前年度より増加し、17.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より増加し、期末在庫率も18.3%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2014/15年度の輸出量で下方修正された。結果として、2015/16年度の期末在庫量がわずかに上方修正された。

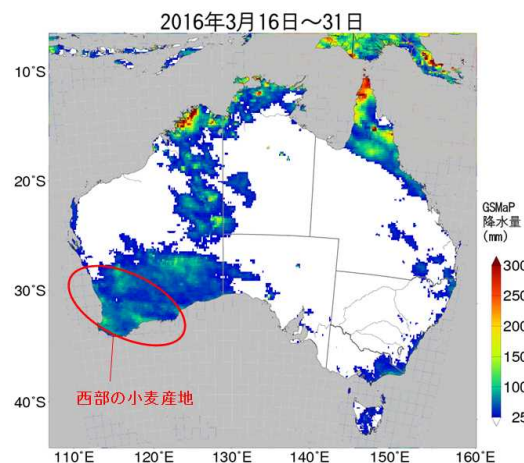
【生育進捗状況及び作柄】

2015/16年度の収穫作業は2015年12月末にほぼ終了。生産量は2014/15年度より6.2%増の24.5百万トンとなる見込み。これは、主産地の西部で播種時期に降雨に恵まれたこと等により播種面積が増加するとともに、地域によりばらつきがあるものの、豪州全体では単収が上昇したため。

なお、9月半ばから10月半ばに小麦産地の広い範囲で乾燥型の天候に見舞われ、出穂期～結実期を迎えていたニューサウスウェールズ州南部やウエスタンオーストラリア州の一部では作柄が悪化するとともに、ビクトリア州では高温乾燥型の天候による影響が州全体に及んだため、品質には大きなばらつきがあり、大部分の産地では穀粒が小さく（ふるい下が多く）、たんばく含有量が低くなっている模様。

図-2 2016年3月下旬の降水量

-西部は少ないながらも播種前の降雨に恵まれた-



資料：JAXA提供「降水量(GSMaP)」をもとに農林水産省で加工。

播種作業は、例年4～6月頃に行われる。

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Indicators」(2016.4.5)によれば、2016/17年度の播種を控えた西部のウエスタンオーストラリア州では降雨に恵まれたものの、東部では播種するには更なる降雨が必要な状況となっている。(図-2)

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Agricultural commodities」(2016.3.1)によれば、2016/17年度の見込み生産量は、2015/16年度並みの24.5百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】

ABARES「Agricultural Commodities」(2016.3.1)によれば、2016/17年度の輸出量は、期首在庫及び生産量の増加により、2015/16年度に比べ2.0%増の17.3百万トンとなる見込み。

我が国の輸入先国シェア 3位 (2015年数量ベース 16.3%)
世界の生産量シェア 9位 (2015/16年度 3.3%)
輸出量シェア 5位 (2015/16年度 10.4%)

表-4 豪州の小麦需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2013/14	2014/15 (見込み)	2015/16		
			予測値、()はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.3	23.1	24.5 (24.2)	-	6.2
消費量	7.0	7.2	7.2 (…)	-	0.4
うち飼料用	3.6	3.8	3.8 (…)	-	-
輸出量	18.6	16.6	17.0 (16.9)	-	2.5
輸入量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	▲ 6.3
期末在庫量	4.6	4.0	4.4 (…)	0.0	10.8
期末在庫率	17.8%	16.8%	18.3% (…)	0.1	1.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.61	12.16	12.75 (12.73)	-	4.9
単収(t/ha)	2.01	1.90	1.92 (1.90)	-	1.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 April 2016)
ABARES 「Agricultural commodities」 (1 March 2016) (※ABARESは作付面積)

写真-3 ビクトリア州西部 ルパニーアップ

-深夜の作業(播種前の肥料噴霧作業)- (2016年3月23日撮影)



写真提供：Australian Crop Forecasters

エ EU

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、収穫面積が増加するとともに単収も上昇することから、史上最高の前年度を更に上回る160.0百万トンとなる見込み。

消費量は、飼料用需要の増加から前年度より増加し、128.8百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より減少し、32.0百万トンとなる見込み。

輸入量は、前年度より増加し、6.3百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より増加し、期末在庫率も12.0%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2014/15年度の実産量、期末在庫量で上方修正、2015/16年度の実産量、消費量で上方修正、輸出量で下方修正された。結果として、期末在庫量が下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

＜冬小麦＞

2015/16年度の実収作業は2015年10月初旬に終了。生産量は160.0百万トンと史上最高となる見込み。これは、播種時期の好天や小麦の収益性がなたねを上回っていたこと等から播種面積が増加するとともに、2015年4～5月の開花期に乾燥型の天候に見舞われたものの、冬季の降雨で土壌水分量が十分となり、6～7月の登熟期にも降雨に恵まれたこと等により単収が上昇したため。また、品質も2014/15年度より総じて良好となった。

2016/17年度の実収作業は、2015年8月から11月半ばに行われた。ポーランド及びバルト諸国では、9月までの乾燥や10月の気温低下により発芽・生育条件が悪化、中央部～東部では、10月上旬・中旬の降雨で播種作業が遅延したものの、主産地のフランス、ドイツ、英国では、好天に恵まれて播種や初期生育が順調に進展した。欧州委員会のMARS報告「Crop monitoring in Europe」(2016.3.21)によれば、2016年1月に欧州東部から南東部にかけて寒波に見舞われたものの、冬季(2015年12月～2016年2月)の気温は大部分の産地では平年を2～4度上回った。降水量も大部分の産地で適量となったものの、スペイン東部、イタリア南部、ルーマニア東部等の一部産地で平年を下回り、サイクロンの影響を受けた英国西部、フランス西部、イベリア半島西部等では平年を上回った。

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Report」(2016.4.1)によれば、温暖な気候を受けて生長を再開した作物には凍害による被害は少なく、土壌水分量も十分で、生育条件は良好となっている。

＜春小麦＞

2015/16年度の実収作業は2015年4～5月下旬に行われた。6～7月の多雨で北部の一部で開花期に悪影響が生じたものの、収穫は9月下旬にほぼ終了した。

【貿易情報・その他】

欧州委員会「Export and import commitments」によれば、2015/16年度(2015年7月～)の輸出量は、2016年4月13日時点で、軟質小麦(小麦粉を含む)は24.7百万トン(対前年度同期比6.9%減)、デュラム小麦は0.8百万トン(同3.1%減)となっている。

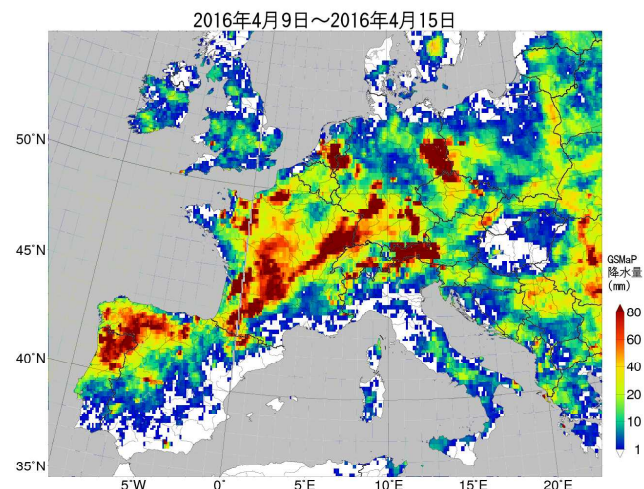
我が国の輸入先国シェア 5位 (2015年数量ベース 1.8%)
 世界の生産量シェア 1位 (2015/16年度 21.6%)
 輸出量シェア 1位 (2015/16年度 20.0%)

表-5 EUの小麦需給(市場年度:7月～翌年6月)

年 度	2013/14	2014/15 (見込み)	2015/16		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	144.6	156.8	160.0 (159.7)	1.5	2.0
消費量	117.3	123.5	128.8 (127.4)	3.1	4.3
うち飼料用	49.0	54.0	59.0 (54.6)	2.0	9.3
輸 出 量	32.0	35.4	32.0 (30.3)	▲ 0.5	▲ 9.7
輸 入 量	4.0	6.0	6.3 (5.2)	-	5.4
期末在庫量	9.9	13.8	19.3 (18.9)	▲ 0.8	39.8
期末在庫率	6.7%	8.7%	12.0% (12.0%)	▲ 0.7	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	25.88	26.72	26.76 (26.74)	▲ 0.09	0.1
単収(t/ha)	5.59	5.87	5.98 (6.00)	0.08	1.9

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「Grain: World Markets and Trade」、
 「World Agricultural Production」(12 April 2016)
 EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(21 March 2016)

図-3 2016年4月上旬の欧州の降水量
 -フランス、ドイツ等小麦産地の大部分で降雨があった-



資料:JAXA提供「降水量(GSMaP)」
 注:赤色は降水量が多く、青色は降水量が少ない地域

オ 中国

(世界の生産量シェア 2位 (2015/16年度 17.8%))
表-6 中国の小麦需給 (市場年度: 7月~翌年6月)

(単位:百万トン)

年 度	2013/14	2014/15 (見込み)	2015/16		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	121.9	126.2	130.2 (130.2)	-	3.2
消費量	116.5	116.5	112.0 (119.5)	▲ 2.0	▲ 3.9
うち飼料用	16.0	16.0	10.5 (18.0)	▲ 1.5	▲ 34.4
輸 出 量	0.9	0.8	1.0 (0.3)	-	25.0
輸 入 量	6.8	1.9	3.0 (2.5)	0.5	55.4
期末在庫量	65.3	76.1	96.3 (76.3)	2.5	26.5
期末在庫率	55.6%	64.9%	85.2% (63.7%)	3.7	20.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.12	24.07	24.14 (24.17)	-	0.3
単収(t/ha)	5.06	5.24	5.39 (5.39)	-	2.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 April 2016)
IGC 「Grain Market Report」(1 April 2016)

【生育進捗状況及び作柄】

<冬小麦>

2015/16年度の収穫は2015年7月に終了。生育期間中は総じて好天に恵まれたため生産量は130.2百万トンと史上最高となる見込み。

2016/17年度の播種作業は2015年9月から11月半ば頃に行われた。冬季は、乾燥で播種が遅れた北部では11月の日照不足のため生長が阻害されたり、2016年1月下旬から2月上旬に雲南省及び四川省の一部で節間伸長期に凍害に見舞われたものの、大部分では好天に恵まれた。

中国中央气象台「農業気象週報」(2016.4.18)によれば、生育進捗はほぼ例年並みで、西北地区、華北地区では節間伸長期、黄淮地域(黄河と淮河の間)及び長江中・下流域では節間伸長期~出穂期、西南地区では出穂期~開花期を迎え、産地の大部分で生育に適した温暖湿潤型の天候となっている。一方、華北地区北東部、黄淮地域北部等では降雨不足による乾燥で生育が阻害されている。

<春小麦>

2015/16年度の播種は2015年3~5月、収穫は7~9月に行われた。

2016/17年度の播種作業は2016年3月に開始され、中国中央气象台「農業気象週報」(2016.4.18)によれば、4月14日時点の播種進捗率は31.9%となっている。西北地区中東部、華北地区内モンゴル自治区では播種~三葉期、一部で分けつ期を迎えている。

【貿易情報・その他】

中国税関(海関)統計によれば、2016年1~3月の小麦輸入量累計は55.6万トン(対前年同期比56.1%増)となった。国別内訳は、豪州27.4万トン(シェア49.3%)、カナダ18.4万トン(同33.0%)、カザフスタン9.6万トン(同17.2%)となっている。

カ インド

(世界の生産量シェア 3位 (2015/16年度 11.8%))
表-7 インドの小麦需給 (市場年度: 4月~翌年3月)

(単位:百万トン)

年 度	2013/14	2014/15 (見込み)	2015/16		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	93.5	95.9	86.5 (86.5)	-	▲ 9.7
消費量	93.9	93.1	90.0 (89.8)	-	▲ 3.3
うち飼料用	4.8	4.5	4.2 (3.4)	-	▲ 6.7
輸 出 量	6.1	3.4	1.0 (0.5)	-	▲ 70.7
輸 入 量	0.0	0.1	0.5 (0.6)	-	900.0
期末在庫量	17.8	17.2	13.2 (14.0)	▲ 0.0	▲ 23.3
期末在庫率	17.8%	17.8%	14.5% (15.5%)	▲ 0.0	▲ 3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.00	30.47	30.60 (30.60)	-	0.4
単収(t/ha)	3.12	3.15	2.83 (2.83)	-	▲ 10.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 April 2016)
IGC 「Grain Market Report」(1 April 2016)

【生育進捗状況及び作柄】

2015/16年度の収穫作業は2015年5月に終了。主産地の北部で登熟期~収穫期の大雨により収穫遅延や単収・品質の低下等の被害が発生したこと等のため、生産量は2014/15年度より9.7%減の86.5百万トンとなる見込み。

2016/17年度の播種作業は2015年10月中旬~2016年1月末頃に行われたが、高温乾燥型の天候により作業が遅延し、播種面積は過去6年間で最低となった。また、現地報道(2016.3.18)によれば、3月に主産地の北部で大雨や嵐に見舞われ、収穫量は政府予測(93.8百万トン)より少なくとも13百万トン減少する可能性がある模様。なお、農業市場情報システム(AMIS)「Market Monitor」(2016.4.7)によれば、4月上旬現在、登熟期~収穫期を迎えている。

【貿易情報・その他】

インドは、4月1日時点の政府在庫に関し、政府備蓄3.0百万トン、緩衝在庫4.5百万トンの計7.5百万トンを目指しているところ、インド食料公社(FCI)データによれば、2016年4月1日時点の政府在庫量は14.5百万トン(前年同期17.2百万トン)となっている。

2015/16年度の政府在庫は、自由市場(Open Market)を通じて販売が行われた。2015年の小麦買入れの品質基準緩和により低品質の在庫を多く抱えていたところ、2015/16年度の落札数量累計は707.7万トンと2014/15年度(423.7万トン)を上回った。

インド財務省は、小麦の輸入関税に関し、2015年10月19日に2016年3月31日を期限として10%から25%に引き上げていたところ、2016年3月28日、同関税率を2016年6月30日まで延長する旨公表した。

キ ロシア

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、単収は低下するものの収穫面積が増加することから史上最高の61.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、37.0百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より増加し、23.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より増加し、期末在庫率も13.4%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、生産量がわずかに上方修正された。結果として、期末在庫量がわずかに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2015/16年度の収穫は冬小麦が2015年8月、春小麦が10月に終了。前年度より春小麦の播種面積が減少したものの、冬小麦は播種時期に一部の産地を除き好天に恵まれて播種面積が増加し、生産量は史上最高の61.0百万トンとなる見込み。

＜冬小麦＞

2016/17年度の播種作業は2015年8月末から10月末に行われた。2015年夏から秋にかけての高温乾燥型の天候により、発芽や初期生育への悪影響が懸念されたが、10月末以降は温暖湿潤型の天候となり作柄が幾分改善した。12月半ばには温暖な気候が続いていた南部でも気温が低下し、休眠期に入った。

2016年3月23日、ロシア気象・環境モニタリング局フロロフ長官は、越冬条件は当初予測より良好で、枯死率は7%以下と通常より低い見込みであると発言。

ロシア気象センターによれば、北部にはまだ積雪があるが、南部は2月中旬以降、中央黒土地帯は3月上旬以降と例年より約1ヶ月早く生長を再開し、土壌水分の状態は概ね良好で、3月末時点で分げつ期～節間伸長期を迎えている。

＜春小麦＞

2016/17年度の春作物の播種作業は2016年2月下旬に開始され、4月14日時点の春穀物全体の播種面積は250万ヘクタール、進捗率は8.1%となっている。

【貿易情報、その他】

ロシア連邦税関局によれば、2015/16年度（2015年7月～）の小麦輸出量累計は、2016年2月末時点で19.0百万トン（対前年度同期比0.8%増）となった。

2015/16年度の国家備蓄在庫の買入れは、例年より早い2015年8月20日から始まったが、買入価格が市場相場より低く、取引が低調で推移したため、政府は10月5日付け農業省令で買入価格の引上げ（3等小麦（食用）：9,700ルーブル/トン⇒10,900ルーブル/トン）を公表した。10月27日から開始された新価格での買入れは2016年4月6日に終了し、2015/16年度の買入数量は累計で172.9万トン。

2016年3月30日付け農業省発表によれば、トカチョフ農相は、2016年秋以降の買入価格に関し、大麦、とうもろこしは引上げ、小麦は据え置きとする改訂省令に署名した。なお、現行の政府の買入価格は10,900ルーブル（16,296円）/トンで、4月1日時点の3等小麦（食用）の市場相場（ロシア・ヨーロッパ部中央部穀物価格、製粉業者着値）10,870ルーブル（16,251円）/トンを上回っている。

（世界の生産量シェア 4位（2015/16年度 8.3%）
輸出量シェア 2位（2015/16年度 14.1%））

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

（単位：百万トン）

年 度	2013/14	2014/15 （見込み）	2015/16		
			予測値、（ ）はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）
生産量	52.1	59.1	61.0 (61.0)	0.0	3.3
消費量	34.1	35.5	37.0 (37.6)	-	4.2
うち飼料用	12.5	13.0	14.0 (14.6)	-	7.7
輸出量	18.6	22.8	23.0 (23.4)	-	0.9
輸入量	0.9	0.3	0.7 (0.7)	-	112.1
期末在庫量	5.2	6.3	8.0 (7.5)	0.0	27.7
期末在庫率	9.8%	10.8%	13.4% (12.3%)	0.1	2.6
（参考）					
収穫面積（百万ha）	23.40	23.64	25.58 (25.20)	▲ 0.02	8.2
単収（t/ha）	2.23	2.50	2.39 (2.42)	▲ 0.01	▲ 4.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 April 2016)
IGC 「Grain Market Report」 (1 April 2016)

写真－4 ロシア南部ヴォルゴグラード州エランスキー地区
一順調に生育する冬小麦畑－（2016年4月9日撮影）
同地域の作柄は4割が良好、6割が例年並み。



ク ウクライナ

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、単収が低下するものの収穫面積が増加することから前年度より増加し、27.3百万トンとなる見込み。

消費量は、飼料用需要が増加することから前年度より増加し、12.5百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より増加し、15.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も16.1%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、生産量でわずかに上方修正された。結果として、期末在庫量がわずかに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2015/16年度の収穫作業は8月上旬にはほぼ終了。生産量は2014/15年度より10.2%増の24.5百万トンとなる見込み。しかしながら、悪天候のため品質は全体的に低くなっており、国際穀物理事会(IGC)によれば、飼料用の割合は約6割と、2014/15年度の2倍程度となる模様。

<冬小麦>（生産量の9割以上）

2016/17年度の播種作業は2015年9月～11月下旬に行われた。2015年夏～秋の乾燥のため作業が遅延し、11月下旬以降の温暖湿潤型の天候を受けて作業が急ピッチで進められたものの、播種面積は598万ヘクタールと前年度を12%下回った。12月下旬に発芽期～分けつ期を迎え、月末の気温低下に伴い休眠期に入った。一部産地では生育不足のまま越冬入りしたが、越冬条件は平年並みで、2016年2月末には温暖な気候を受けて南部、中央部、東部で作物の生長が見られた。

現地調査会社によれば、3月は総じて温暖湿潤型の天候となり、上旬には国内全域で生長を再開した。3月10日時点で播種面積の63%が分けつ期、その他は発芽期～第三葉形成期を迎えており、作柄は概ね良好～平年並だが、西部の一部では昨秋～冬季の気象条件が悪かったため生育不良の状態にある。

IGC「Grain Market Report」(2016.4.1)によれば、昨秋に冬小麦を播種したほ場のうち、生育不良により今春に穀物や油糧種子を蒔き直す面積は例年を上回ると見られる。

<春小麦>

2016/17年度の播種作業は2016年3月から開始されており、4月14日時点の播種面積は15.3万ヘクタール、進捗率は88%となっている。

【貿易情報・その他】

ウクライナ税関によれば、2015/16年度(2015年7月～)の小麦輸出量累計は、2016年2月末時点で11.8百万トン(対前年度同期比29.1%増)となった。国内訳は、タイ2.0百万トン(シェア16.5%)、エジプト1.4百万トン(同12.1%)、インドネシア1.0百万トン(同8.8%)韓国1.0百万トン(同8.0%)等となっている。

我が国の輸入先国シェア	4位 (2015年数量ベース)	2.1%
世界の生産量シェア	7位 (2015/16年度)	3.7%
輸出量シェア	6位 (2015/16年度)	9.5%

表－9 ウクライナの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

(単位:百万トン)

年 度	2013/14	2014/15 (見込み)	2015/16		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	22.3	24.8	27.3 (27.3)	0.0	10.2
消費量	11.5	12.0	12.5 (12.9)	-	4.2
うち飼料用	3.4	4.0	4.5 (4.7)	-	12.5
輸 出 量	9.8	11.3	15.5 (15.1)	-	37.5
輸 入 量	0.1	0.0	0.1 (…)	-	66.7
期末在庫量	3.7	5.2	4.5 (4.8)	0.0	▲ 13.1
期末在庫率	17.3%	22.3%	16.1% (17.0%)	0.1	▲ 6.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	6.57	6.30	7.12 (7.05)	0.02	13.0
単収(t/ha)	3.39	3.93	3.83 (3.87)	▲ 0.01	▲ 2.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 April 2016)
IGC 「Grain Market Report」 (1 April 2016)

写真－5 ウクライナ南部 ドニエプロペトロフスク州

－ 4月上旬の降雨を受けて、作柄の改善が期待される冬小麦畑－
(2016年4月9日撮影)

同地域の作柄は2割が良好、8割が例年並み。



ケ カザフスタン

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、収穫面積が減少するものの単収が上昇することから前年度より増加し、13.8百万トンとなる見込み。

消費量は、飼料用需要が増加することから前年度より増加し、6.9百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より増加し、7.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も22.8%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、輸出量で上方修正された。結果として、期末在庫量が下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2015/16年度の収穫作業は2015年11月初旬に終了。生産量は2014/15年度より5.8%増の13.8百万トンとなる見込み。これは、2015年5月の大雨を受けて播種作業が遅れたこと等により播種面積が減少したものの、登熟期には総じて好天に恵まれて単収が上昇したため。

2016/17年度の春小麦の播種作業は、南部では既に開始されており、カザフスタン国家気象局（2016年3月）によれば、3月下旬時点で早いものは発芽期を迎え、生育状況は良好となっている。

カザフスタン農業省によれば、4月14日時点で南部のジャンプール州、南カザフスタン州、クズロルダ州では播種作業がほぼ終了し、アルマトイ州では計画面積の約3割で作業が終了している。なお、主産地の北部ではまだ播種が開始されていない。

【貿易情報・その他】

カザフスタン財務省税関監督委員会によれば、2015/16貿易年度（2015年7月～）の小麦輸出量累計（関税同盟加盟国（ロシア、ベラルーシ）を除く）は、2016年2月末時点で234.9万トン（対前年度同期比11.1%増）となった。国別内訳は、ウズベキスタン105.6万トン（シェア45.0%）、タジキスタン60.3万トン（同25.7%）といった中央アジア諸国が上位を占めており、次いでイラン17.0万トン、アフガニスタン16.7万トン、中国12.8万トン等となっている。

食用小麦の価格は、2015/16年度の収穫期（2015年秋）以降、下落傾向で推移しており、2016年2月末時点の3等小麦（食用）の平均価格（ロシア欧州部国境持込渡し）は、165ドル（18,975円）/トンと、前年同時期（270ドル/トン）を大きく下回っている。現地調査会社によれば、これは、国際価格の低迷、主要輸出相手国の需要の低下、カザフスタンの通貨テングが不安定なこと等が要因と考えられる。

カザフスタン国家経済省経済委員会によれば、2016年4月1日時点の在庫量は7.7百万トンと前年同期（8.5百万トン）を下回った。うち、製粉用は5.9百万トン、飼料用は0.4百万トン、種子用は1.4百万トンとなった。

（世界の輸出量シェア 8位（2015/16年度 4.0%））

表-10 カザフスタンの小麦需給（市場年度：9月～翌年8月）
（単位：百万トン）

年 度	2013/14	2014/15 (見込み)	2015/16		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.9	13.0	13.8 (13.7)	-	5.8
消費量	6.8	6.8	6.9 (6.4)	-	1.5
うち飼料用	2.0	2.0	2.1 (2.1)	-	5.0
輸 出 量	8.1	5.5	7.0 (6.5)	0.5	26.4
輸 入 量	0.0	0.6	0.1 (0.1)	-	▲ 86.7
期末在庫量	2.0	3.3	3.2 (3.4)	▲ 0.5	▲ 2.5
期末在庫率	13.4%	26.3%	22.8% (26.5%)	▲ 4.6	▲ 3.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	12.95	11.92	11.57 (11.50)	-	▲ 2.9
単収(t/ha)	1.08	1.09	1.19 (1.20)	-	9.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 April 2016)
IGC 「Grain Market Report」(1 April 2016)

写真-6 北カザフスタン州

—春小麦播種前のほ場—（2016年4月15日撮影）

昨年ヒマワリを栽培し、秋の収穫後に耕起をしたままの状態



コ アルゼンチン

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、単収が上昇するものの収穫面積が減少することから前年度より減少し、11.3百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度並みの6.4百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より増加し、7.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も6.1%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、生産量、輸出量で上方修正された。結果として、期末在庫量が下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2015/16年度の収穫作業は2016年2月に終了。生産量は2014/15年度より9.6%減の11.3百万トンとなる見込み。これは、小麦の収益性が低く大麦等への転作が進んで播種面積が減少するとともに、2015年8月に南部の一部産地で洪水を伴う大雨に見舞われて収穫面積が減少したため。

なお、8月の大雨に見舞われた地域の一部でサビ病、黄斑病等が発生するとともに、10月下旬の雨を伴う寒冷前線の影響による凍結等から生育や収穫が遅延したこと等により、品質は、たんぱく含有量を含めて例年を下回ると見られる。

アルゼンチンでの播種作業は、例年5～7月頃に行われる。

ブエノスアイレス穀物取引所「Informe de Pre-Campaña」（2016.4.13）によれば、今後、播種の進展に伴い変動する可能性はあるが、2016/17年度の播種面積は4.5百万ヘクタールと、前年度を25%、過去5年平均を15%上回る見込みである。

また、国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Indicator」（2016.4.5）によれば、2016/17年度の播種を控えた最近の降雨は望ましいものであり、政府機関の予測ではないが、播種面積は2015/16年度より最大で4割上回るとの予測もある。

【貿易情報・その他】

アルゼンチン農産業省農畜食糧衛生品質管理センター(SENASA)によれば、2016年1～2月の小麦輸出量累計は164.0万トン(対前年同期比68.0%増)となった。国別内訳は、ブラジルが62.5万トン(シェア38.1%)と大半を占め、次いでインドネシア32.9万トン(同20.0%)、タイ17.5万トン(同10.7%)等となっている。

2015年12月17日、アルゼンチン政府は、農産物の輸出税を撤廃・引下げる旨を公示し、小麦輸出税(23%)は撤廃された。

また、12月29日、同政府は、穀物・油糧種子の輸出登録制度(ROE)を廃止する旨を公示した。これに伴い、2008年以前適用されていた輸出申請制度(DJVE)が再び導入されることとなった。

IGC「Grain Market Report」（2016.4.1）によれば、2016/17年度の輸出量は、2015年12月の輸出規制の緩和や生産量の増加見込み等から2015/16年度より増加し、過去5年間で最大となる見込みである。

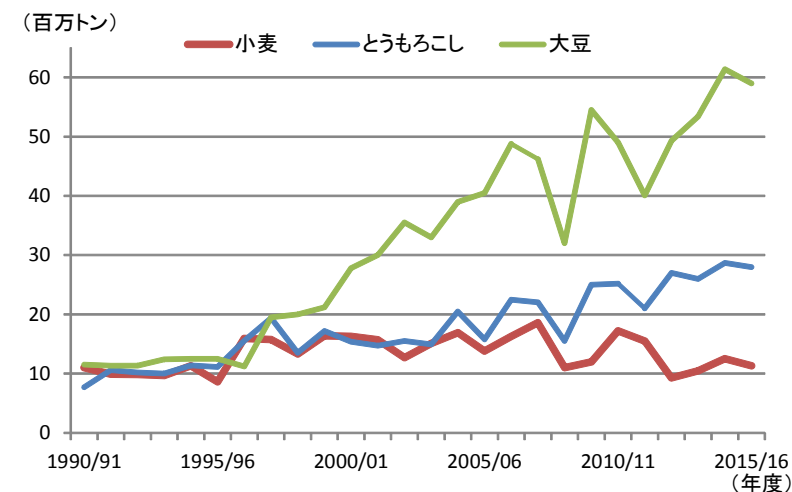
(世界の輸出量シェア 7位 (2015/16年度 4.3%))

表-11 アルゼンチンの小麦需給(市場年度:12月～翌年11月)
(単位:百万トン)

年 度	2013/14	2014/15 (見込み)	2015/16		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.5	12.5	11.3 (11.3)	0.3	▲ 9.6
消費量	6.1	6.4	6.4 (6.3)	-	-
うち飼料用	0.1	0.3	0.3 (1.0)	-	-
輸 出 量	2.3	5.3	7.5 (7.2)	0.5	41.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	▲ 25.0
期末在庫量	2.5	3.4	0.9 (2.3)	▲ 0.2	▲ 74.8
期末在庫率	30.0%	28.9%	6.1% (17.4%)	▲ 1.7	▲ 22.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	3.50	4.20	3.77 (4.11)	-	▲ 10.2
単収(t/ha)	3.00	2.98	3.00 (2.75)	0.08	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 April 2016)
IGC 「Grain Market Report」(1 April 2016)

図-4 アルゼンチン産小麦、とうもろこし、大豆の生産量の推移
—輸出登録制度導入(2007年)以降、小麦は減少傾向で推移—



資料: USDA 「PS&D」をもとに、農林水産省で作成。